

孫のために何ができるでしょうか

公益社団法人家庭問題情報センター 竹前 ルリ

鈴代さんは、「緊急で相談したい」と電話を掛けてきたその日に、一時間もかかる遠方から相談に來られました。心配でたまらないという面持ちです。

鈴（鈴代） 孫の啓太のことです。

今年小学校に入学して、計算が得意だとか、電車や車をすごく細かく観察して絵を描くと聞いていましたから、何の問題もないのだと思っていました。夏休みに一緒に海に行ったとき、嫁が、啓太は学校で先生の言うことを聞けないとか、ボール遊びが苦手、皆の中に入れないなどと言っていましたけれど、そのうち治るだろうと、あまり気にしていませんでした。

ところが昨日、運動会に行ったら、玉入れで啓太だけ、何もせず突っ立っているではありませんか！先生に注意されると投げはじめましたが、籠とはまったく反対の方に投げるので、びっくりしてしまいました。心配になって息子の家に帰ってから、息子と嫁にどういうことか聞きました。

そうしたら、啓太は発達障害なのだとどうでもありませんか。息子の説明では何だか分からなくて、私は気が動転してしまいました。アスペンとかいう名前で、病気ではないと言いますが、でも障害なら、どこがおかしいのだと思います。

治るものなのかどうか知りたくて、こち

らに電話しました。

力（カウンセラー） ずいぶんと驚かれ、心配されたでしょうね。

それは、アスペルガーという名前ではありませんでしたか。

鈴 そうです、そうです。アスペルガーでした。

まだ決まったわけではなく、これから検査を受けるのだそうです。入院治療が必要なのでしょうか。

力 いいえ、その必要はありません。

赤ちゃんはすごいスピードで身体や脳が発達しますが、脳の発達にばらつきがあって、よく発達している部分と、遅れている部分とがアンバランスになっている場合を発達障害と呼びます。

鈴 知能が低いということですか。

いいえ、知能は必ずしも低いわけではありません。アスペルガーとか、高機能発達障害といわれる人には、知的に非常に高い方、芸術的才能を発揮される方もいます。

ノーベル賞を受賞した方たちの中にも、この障害があった人も多いのですよ。

鈴 ええっ！でも病気でしょう!?

それとも頭が良すぎてほかの子を馬鹿にしてサボっているのかしら。啓太は、担任の先生から「わがままで自分の好きなことしかしない。家での躰けが悪いのではない

ですか」と言われるのだそうです。

力 それは啓太君が可哀想ですね。最近発達障害についてよく理解されてきました。が、まだ適切な対応が間に合わない学校もあるようです。

わがままではなく、人とのコミュニケーションや、周囲に合わせて行動するのが不得意なだけなのです。

鈴 そういえば出かける約束を、急な来客で取りやめたら、泣きわめいて暴れました。そういうことが気に食わないのですか。

力 気に食わないのではなく、急な変化についていけないのです。前もってよく説明したり、紙に書いていたりして分かりやすくすると、大騒ぎをしないで済みます。

鈴 それには、啓太の変ったところを理解していないとできませんねえ。

力 その通りです。周囲から誤解されて、悩んでいる方たちも多いのです。

鈴 子どもだけじゃないんですか!?

力 学校や社会の中で学んで、大人になる頃にはそういう傾向が目立たなくなることが多いのですが、そういう方たちにとって、複雑な人間関係の中で暮らすのは、とても大変です。

鈴 要するにどこが違うのですか。脳の発達上、問題が主に三つあると言わ

れています。

第一に、人間関係を築くのが苦手で、自分ひとりの世界に閉じこもってしまいがちなことです。次にコミュニケーションの問題で、難しい言葉は使えるのですが、一方通行的で、自分の言いたいことを言うけれど、相手の話を聞かないようなことが起こりがちです。相手の気持ちを察することが難しいのです。三番目は、こだわりが強いこと。同じ状態とか行動、自分に興味のあることに固執する傾向です。それが研究や技能に結びつくと、大きな功績を挙げることがも珍しくありません。

周囲が理解して環境に配慮すれば、力が発揮できますので、まずは専門の機関で診断を受けることが大事です。

鈴 息子夫婦は案外落ち着いていて、発達障害の子どもも専門の病院の受診を予約してあると言っていました。

力 それは良かったです。どのように対処すればいいか、教えていただけでしょう。

鈴 私は何をすればいいのかわかりません。

力 たいへん重要な役割があります。こういうお子さんを育てるには、とても忍耐が必要で、疲れます。また、周囲の無理解から親のしつけが悪いとか、本人が怠け者だとか、わざと悪さをしているなど、陰口を言われることも多いです。そん

なとき、人知れず苦勞するのは啓太君のお母さんでしょう。お父さんにも、お母さんを慰め、支える大事な役目があります。

そこで、啓太君のご両親の力になり、味方だいて欲しいのです。啓太君の良いところを認めて、彼の不得意なコミュニケーションを補い、温かい人間関係を整えてください。周囲の配慮があれば皆の中に入れてようになり、社会のルールも学べ、行動も身につきます。一緒に遊びながら、啓太君の気持ちを理解し、ご両親の苦勞をねぎらってください。

鈴 分かりました。嫁を助けて、啓太ともなるべく頻繁に会うようにします。

息子の家庭の幸せが、私の何よりの喜びですから。

その後、啓太君は発達障害専門の小児クリニックで軽い自閉傾向があると診断されました。

鈴代さんは、対応の方法を啓太君の両親とともに学び、おかげさまで、理解あるお祖母ちゃんとして、とても良い助け手になっているとの報告をいただきました。

